

南山大学に対する改善報告書検討結果

<大学評価実施年度：2020年度>

<改善報告書検討実施年度：2024年度>

南山大学から改善報告書の提出を受け、本協会は改善に向けた大学全体の取り組み、3点の改善課題の改善状況について検討を行った。その結果は、以下のとおりである。

<改善に向けた大学全体の取り組み>

大学評価（認証評価）の結果を受け、全学における内部質保証に責任を負う組織である「内部質保証委員会」は、改善課題に重点を置いて点検・評価を行うこととし、該当する学部等に対して課題に対する目標設定、点検・評価及び改善を依頼し、同委員会のマネジメントのもと各部局で改善活動に着手した。また、自己点検・評価の客観性・妥当性及び内部質保証の有効性を高めるために、「外部評価委員会」を開催し、改善課題に重点を置いた点検・評価活動等の評価を受けた。さらに、プログラムレベルと全学レベルの点検・評価活動を踏まえて、2023年度に執行部主導で教学マネジメント構想体制を整備するなど、大学全体で改善に向けて取り組んだ。今後は、改善に向けた取り組みの成果が十分ではないものや検討段階にある課題について、上記の内部質保証システムのもとで引き続き改善に取り組むことが求められる。

<是正勧告、改善課題の改善状況>

提言の改善状況から、改善の成果が十分に表れているとはいいがたい。

改善課題に関し、学位授与方針に則した学習成果の把握・評価の問題、学生の受け入れにおける定員管理の問題について、今後もさらなる改善に努めることが求められる。

個別の提言に対する改善に向けた大学の取り組み及びそれに対する評価は、以下のとおりである。なお、前回の大学評価時には指摘対象となっていなかった事項について、今回の改善報告書提出時には提言に相当する問題が生じているため、検討所見を参照し、次回の大学評価に向けて改善に取り組むことが求められる。

1. 是正勧告

なし

2. 改善課題

No.	種 別	内 容
1	基準	基準4 教育課程・学習成果
	提言（全文）	教育課程の編成・実施方針に、社会科学研究科経

南山大学

		<p>経済学専攻博士前期課程、経営学専攻博士前期課程、総合政策学専攻博士前期課程、社会科学研究科経済学専攻博士後期課程、経営学専攻博士後期課程、総合政策学専攻博士後期課程、理工学研究科システム数理専攻博士後期課程、ソフトウェア工学専攻博士後期課程、機械電子制御工学専攻博士後期課程及び法務研究科法務専攻専門職学位課程では教育課程の実施に関する基本的な考え方を示していないため、改善が求められる。</p>
	検討所見	<p>社会科学研究科経済学専攻博士前期課程、経営学専攻博士前期課程、総合政策学専攻博士前期課程、社会科学研究科経済学専攻博士後期課程、経営学専攻博士後期課程、総合政策学専攻博士後期課程、理工学研究科システム数理専攻博士後期課程、ソフトウェア工学専攻博士後期課程、機械電子制御工学専攻博士後期課程、法務研究科法務専攻専門職学位課程で教育課程の編成及び実施に関する基本的な考え方を明示した教育課程の編成・実施方針を定めており、改善が認められる。</p>
No.	種 別	内 容
2	基準	<p>基準4 教育課程・学習成果</p>
	提言（全文）	<p>人文学部以外の学部・研究科においては、学位授与方針に定めた学習成果とその測定方法との関連性が明瞭でない等の理由により、学位授与方針によって求められている学習成果を適切かつ多角的に把握・評価しているとはいえないため、改善が求められる。</p>
	検討所見	<p>「内部質保証委員会」において、全学部・研究科の学習成果の把握・評価方法の実態を整理し、2021年度から学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の改正、カリキュラム・マップの作成、カリキュラムツリーの整備等について順次進めている。</p> <p>学部については、アセスメント・プラン（ポリシー）を策定したうえで、全学的アセスメントテスト</p>

南山大学

		<p>の導入や学修到達度調査、学修時間調査、企業調査の実施等を進めていくこととしている。ただし、これらの取り組みはいずれも検討段階にあるため、引き続き各学部の学位授与方針に示した学習成果を測定・把握するよう改善が求められる。</p> <p>研究科では、学位授与方針に示した学習成果を測定・把握する方法については、未だ検討段階にあることから、引き続き改善が求められる。</p>
No.	種 別	内 容
3	基準	基準5 学生の受け入れ
	提言（全文）	<p>収容定員に対する在籍学生数比率について、人間文化研究科博士前期課程で 0.33、国際地域文化研究科博士前期課程では 0.33、人間文化研究科博士後期課程で 0.23、理工学研究科博士後期課程では 0.11 と低いため、大学院の定員管理を徹底するよう、改善が求められる。</p>
	検討所見	<p>収容定員に対する在籍学生数比率について、人間文化研究科博士後期課程では改善が認められる。</p> <p>一方で、人間文化研究科博士前期課程、国際地域文化研究科博士前期課程、理工学研究科博士後期課程においては改善が認められない。</p> <p>また、大学評価時には改善課題ではなかったものの、収容定員に対する在籍学生数比率について、法学研究科博士前期課程では 0.08、同後期課程では 0.22 と悪化しているため、大学院の定員管理を徹底するよう改善が求められる。</p>

<再度報告を求める事項>

なし

南山大学

<弾力的措置にかかる要件の充足状況>

弾力的措置にかかる要件	前回の評価結果 における提言	改善状況
ア) 基準 2 「内部質保証」に関し、是正勧告及び改善課題のいずれも提言されていない。	無	—
イ) 基準 4 「教育課程・学習成果」に関し、是正勧告が提言されていない。	無	—
ウ) 基準 4 「教育課程・学習成果」の学習成果の測定に関しては、改善課題も付されていない。	有	×

以上